



TRIO'について・・・

TRIO' (トリオツ)・・・ドラマー市原康が2004年に立ち上げたジャズピアノトリオ。現在までに6枚のアルバムをリリース。ピアノには日本を代表するジャズピアニスト、福田重男。ベースにはスウェーデン在住で、ヨーロッパを活動拠点とする森泰人。そしてドラムは、どちらかと言うとスタジオミュージシャンとしての方が名前が知れているかも知れません。市原康。この三人限定のグループで、今年12年目を迎える。

東北学院大学、半田昌樹教授によれば、「オリジナル曲もいわゆるスタンダード・ナンバーもTRIO'固有の世界をもち、そのサウンドは自ずと哲学の薫りを放つ。静謐であることを当為としつつも決してそれを宣揚することはなく、いわばしじまの鐘の打ち方の模範を控えめにそっと示すスタイルにすっかり魅了されます。」と。 TRIO'のサウンド、どうぞご堪能ください。

<http://i-produce.net/>

市原康・・・ドラムス

1969年早稲田大学在学中、ジョージ大塚氏に師事。同大学スイング&ジャズ研究会、モダンジャズ研究会を経てプロとしての活動に入る。1975年渡米。約一年間、日本人グループ「BROWN RICE」と共に活動後、帰国。ジャズドラマー、スタジオミュージシャンとして多数のレコーディング、ライブ演奏、コンサート、TV出演などの活動が続け、惣領泰則、大野雄二、鈴木宏昌、前田憲男、菊池ひみこ、久石譲、新日フィル、阿川泰子、松山千春、ピチカートファイブ、ウォン・ウィン・ツァンなど数多の音楽家達から信頼され、活動を続け現在に至っている。90年代に入って、自己の音楽活動にも注力。2004年1月にはジャズピアノトリオ「TRIO'(トリオッ/pf,福田重男、b,森泰人)」を結成。同時にレーベル「アイプロデュース」を立ち上げ、現在までに6枚のアルバムをリリース。TRIO'の活動の他に今年6月からは大野雄二「ルパンティック6」その他の演奏活動を精力的に続けている。東京音楽大学の作曲科の客員教授として後進の育成にも尽力している。また、黒鯛プロデュースにて芝居をする役者としての顔もある。

<http://l-produce.net>

福田重男・・・ピアノ

1980年プロ・デビュー。自己のアルバムで、ロン・カーター、ジョー・チェンバース、アル・フォスターとの競演を果たす。ニューヨークのジャズをイメージさせる日本の代表的なジャズピアニスト。MALTA HIT&RUN、向井滋春、松本英彦、渡辺貞夫、日野皓正、日野元彦等をはじめ数多くのライブシーンで活躍を続けている。現在は自己のトリオの他、藤陵雅裕グループ、三木俊雄フロント・ページ・オーケストラを始め、セッション、作曲・編曲、スタジオワーク等で活動中。またヤマハミュージックの講師として後進の指導にあたっている。他、ジャズライフ誌において、1989年から2006年まで「月間スタンダード」の連載を務め、その膨大な知識と垢抜けた文章でも人気を博した。2014.12月、7枚目のリーダーアルバム「MEMORIES」をリリース。

<http://shigeofukuda.cool.coocan.jp/>

森泰人・・・ベース

スウェーデン在住30年になる森泰人は、ヨーロッパのジャズプレイヤーとしてその地位を築き上げた。共演者にはリー・コニッツ、スタン・ゲッツ、ケニー・バロン、トゥーツ・シールマンス、ジョージ・コールマンなど錚々たる演奏家が名を連ねる。

1985年ボーヒュスレーン・ビッグバンドのレギュラーベーシストに就任、現在に至る。

1994年秋、日本と北欧の文化交流を目的としたプロジェクト「スカンジナビアン・ジャパン・コネクション」を発足し、ラーシュ・ヤンソン、ボーヒュスレーン・ビッグバンド、ホッド・オブライエン、ウルフ・ワケニウス、アンダーシュ・パーションなど、北欧中心に欧米の多くの演奏家を日本に、また高瀬アキ、伊藤君子、鈴木良雄、おおたか静流、ウォン・ウィン・ツァン等、日本からも多くの演奏家を北欧に紹介している。

<http://www.morimusic.jp>